

2018年 4月24日発行

鵬 際

HOSAI

「鵬際」鵬は翼の幅3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬（おとり）が飛ぶ（＝はるかなかなたの）空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一步一步目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬際」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。

八代経済開発同友会

（通巻第125号）

<http://www.goroyoka-yatsushiro.com>
E-mail:jimukyoku@goroyoka-yatsushiro.com



動き出そう!! 夢物語から実現へ…

平成30年度 八代経済開発同友会

第55代 代表幹事 松岡 隆志

…八代経済開発同友会は、奉仕の志を持つものが、共に集い、学びあい、幸福感のある企業と、活力ある地域づくりに貢献する。…

この理念の下に活動している私達は、他の奉仕団体や経済団体等とは違い、上部組織がありません。それがゆえに、創立50周年時に自分たちで理念を掲げ確りと行動してきました。また、事業資金も会員の会費から捻出したり、人脈を使い思考を凝らし行政等から補助金を頂いたりして数々の事業を企画・実行してきました。

また、上部組織が無いがゆえに何の縛りも無く、理念に基づき自由な発想で八代経済開発同友会ならではの事業展開が出来るのです。八代経済開発同友会であれば出来ないことがあると感じます。この54年間、本会にて頑張ってきた、先輩方々に深く感謝するとともに敬意を表します。

さて、この数年間で私達の八代は大きく変化し続けています。言うまでもありませんが、来航が増え続ける大型クルーズ船、民間期成会も発足し国・県も期待を寄せる物流拠点八代港。夢から実現へ歩みだした八代天草架橋やユネスコ無形文化遺産に登録され次へのステップを目指す八代妙見宮大祭など、ここに書き尽くせないほどの課題を抱えています。どの課題も全て前向きな課題で私たちの地域が着実に発展すべく課題なのです。特にクルーズ船によるインバウンド対策や物流拠点構想については時間はありません。2年後には、専用岸壁や旅客ターミナルが完成します。私自身、八代商工会議所のアジア経済交流委員長としてコミットさせて頂いています。官民一体となって結果を出していかなければなりません。

しかし、前向きなことばかりではありません。全国的なことでしょうが、少子高齢化による人手不足や国内マーケットの縮小。これはかつて誰も経験したことのないスピードで加速していくことでしょう。発展を遂げようとしているこの八代でもその波を止めることはできません。各企業やお店も生き残りをかけて競争力をつけ戦っています。この縮小していくマーケットの中で競争しても効果的とは言えません。こんな時こそ共存共栄を考えていかなければと考えます。一人勝ちをするのではなく、同業者・取引業者または、異業者と情報や技術などを共有し、共に生き残って

いくことが大切な事と思います。

さて、共に集い、共に学び合う、私たち八代経済開発同友会の会員は、形にはありませんがこの共存共栄すべく情報等の共有を知らず知らずのうちにやっているのかもしれない。私たちは、幸福感のある企業づくりを目指していくためにも共存共栄のための形ある何かを創っていくことも必要です。

また、地域においても一人勝ちはできません。地域間競争という言葉は数年前によく耳にしましたが、クルーズ船によるインバウンド対策や物流拠点構想、フードバレーや八代天草架橋など課題多き八代は、これからは地域間交流を進めていかなければ、その課題に太刀打ちできません。活力ある地域づくりを目指す私たちは、県南地域・中九州地域を含め地域の共存共栄を模索していく事が不可欠と考えます。

前項に八代経済開発同友会は、理念に基づき自由な発想で事業展開ができると書きました。八代天草架橋建設促進は、最初は夢の架け橋と呼んでいました。八代経済開発同友会は、民間協力期成会を担い天草の方々と交流を絶やさずに架橋の必要性を語ってきました。2017年からは、高校選抜バドミントン大会を主催したり、新聞に意見広告を出したり、署名活動を行うなど積極的な活動を行っています。自由な発想で今後も夢から現実へと変わっていくように活動していきます。

また、これまでに携わってきた八代妙見宮大祭とのかわりは継続が必要です。ユネスコ支援応援隊のどや顔コンテストや献灯運動など本会の委員会としてリーダー的存在でなければなりません。また今後、地域にとって必要とされる事業も本会らしく他団体や行政などを巻き込みながら企画実行していく必要があります。

それには、八代経済開発同友会の会員拡大が不可欠になってきます。50周年の時に我々は、90人の侍という会員全ての企業理念を掲載した冊子を作成しました。本年度は66名でスタートします。私たちは、30人を目標に会員拡大を図っていき、例会が勉強になる、楽しい、情報の共有ができるものにしていきます。そこで会員企業活性化の委員会が本会内部の重要な役割となってきます。上記でも書きました

が、共存共栄しながら、本会会員が活性化し業界のリーダーとなりえるようなシステムもしくは、プログラムの作成を模索していきます。

そして昨年に引き続き、地域未来創造戦略委員会では調査から企画、実行へと駒を進めていかなければなりません。大きく変化していく地域を官民一体となって良きものにしていくには、本会らしさが必要な時が必ず来ます。そこで戦略の要として会員に情報を共有しながら進めていきます。

この委員会活動や例会の内容などをできるだけ、SNSやホームページを使って会員内外へ情報発信していきます。もちろん、30人の会員拡大にも活用いたします。

まさに、55年目を迎えるスタートにあたり、夢物語から実現へ…

八代経済開発同友会が創立60周年を迎える時にどんな地域になっているのでしょうか。私たちは、チャンス八代を取り逃がさずに幸福感のある企業が共存共栄し、中九州の地域と手を取り合って地域間交流のもと活力ある八代であることを念じて活動してまいります。

最後にこれまでご協力いただきました各界、諸団体の皆様そして会員の皆様の更なるご支援、ご指導をお願い申し上げます。私の所信とさせていただきます。

委員会基本方針

八代・天草架橋建設促進委員会

委員長 飛 石 幸 弥

八代と天草を結ぶ架橋の早期実現に向けて、行政による期成会と民間期成会で総決起大会や調査活動、シンポジウムなどこれまでに多くの方々運動を続けて来られ、四半世紀の歳月が経ちました。現実的に課題が多く実現性において厳しい声もある中で、この八代・天草間の架橋建設は、八代・天草を取り巻く地域に住む方々にとって、構想発表当初から今も変わらず誰もが切望する架け橋であります。そして、ここ数年間で大型クルーズ船の寄港とインバウンド客の増加、物流拠点構想、災害時における緊急輸送路の必要性など架橋建設に向けての環境は、物流面・観光面・災害面から見た多くの要因に後押しされ、少しずつではありますが実現の可能性に向け一歩ずつ前進している手応えを感じられるようになってきました。

昨年、八代経済開発同友会は民間期成会のメンバーの皆様や行政の方々と連携し、架橋建設について声を高めようと意見広告やポスター・チラシ作成、署名運動など、架橋計画活動の活性化に努めて参りました。今年度も引き続き、さらにその必要性を訴えるため、同友会・期成会の皆様と共に自由な発想で夢の架け橋から実現へと繋がるよう活動を行って参ります。

地域支援企画実行委員会

委員長 濱 孝 治

私たちの暮らす八代には多くの宝があり、それらは生活の礎としてこれからも大切に継承していかなければなりません。そのためにも八代経済開発同友会は理念に基づき、他団体や行政などを巻き込みながら地域にとって必要とされる事業をおこなっていく団体として宝の継承と地域の発展に尽力していかなければなりません。

これからの八代は、全国の地方が抱える問題に直面しながらも、多くのチャンスが訪れようとしている面もあります。文化・経済・観光、どの分野にもそれらのチャンスは潜んでおり、効果的な事業の実行は地域の発展に繋がるとともに、各分野への伝播が期待されます。また、八代地域だけに限らず、広域で事業に取り組む事も今後の重要な要素となると考えられます。

本年、「地域支援企画実行委員会」では、これまで同様の取り組みとして、例年開催される「どや顔コンテスト」や昨年より始まった「献灯運動」等、先人たちの想いを

受け継ぎ次の世代へ継承していく事業をおこなっていくと同時に、これから訪れるチャンスを最大限に活かせる八代にするために、我々にしか出来ない取り組みを、広域での連携を図りながら実行していきます。

夢物語から実現へ…皆が思い描く夢物語を実現へ向けて動き出せる1年にしていきます。

会員企業活性化委員会

委員長 内 田 晴 也

「100年に一度の大変革の時代に入った」これは、トヨタ自動車・豊田章男社長の話です。売上・利益は勿論、グループ社員数でも日本一の企業が、「勝つか、負けるか」そんな甘い時代ではない、「生きるか、死ぬか」の時代であると大改革を断行、グループ再編から年齢に関係なく現場での能力に応じて適材適所に精通したリーダーを配置、良いと思うあらゆる改革を即断・即決・即実行し、命がけの大改革を展開されています。はたして我が社は。

八代経済開発同友会の会員として、50周年の節目で作成した組織理念の下にそれぞれに努力を重ねています。地方創生が推進される中に、政府も様々な地方支援を行い、これからの5年10年を見据えた改革案を提案しています。各会員企業もそれぞれに検証した理念に基づき、計画(P)・実行(D)・評価(C)・改善(A)を繰り返す日々です。熊本地震の復旧・復興が推進される中、これまで以上に業種を問わず、県南地域の将来を見据え、会員の連携による地域・企業活性化は必要不可欠です。短期的な一人勝ちの成果ではなく、お互いが成長の上に長期的な発展が重要だと考えます。

本年度、会員企業活性化委員会では、まず自らの理念の基に行動計画の策定、人材育成・財政基盤確立の重要性を発信します。自らの基礎を固め、仲間と共に確実に実行可能な短期計画、将来の夢を描く中・長期計画の策定を推進いたします。一人ではなく、信頼できる仲間と、それぞれの将来に夢を語り合う時間を提供していきます。

会員拡大交流委員会

委員長 坂 本 文 仁

“夢物語から実現へ”90名への拡大

私たちの委員会の基本方針は、90人の侍復活に向けた会員拡大、会員の交流企画となっております。

同友会メンバーを中心に「共存共栄」のできる八代を

作っていくこと、またそのためにメンバーを増やすことは絶対条件となります。同友会の行事に参加すると「何かがある」というような交流企画をできる委員会にすると共に、多くの皆様の参加の機会を委員会メンバーで作っていきましょう。

一人で一人、一人が一人拡大をしていけば90人はきっと夢ではなくなります。

地域未来創造戦略委員会

委員長 高 崎 正

“夢物語から実現への架け橋となる一年を目指して”

妙見祭のユネスコ無形文化遺産登録、八代港の国際旅客船拠点形成港湾選定及び大型ガントリークレーンの供用開始など、八代は全国でも極めて恵まれた発展の可能性を秘めた地域であると言えます。その中心となるのは八代港であり、この地域活性化のための大規模装置をいかにうまく回すかが鍵となります。今こそ八代経済開発同友会が持つ機動性を活かして、官民が一体となった動きを加速させなければなりません。

そこで、地域未来創造戦略委員会といたしましては、前年度から取り組んでいる国際観光農園の展開やインバウンド対策等を盛り込んだ「国際観光拠点化推進についての提言書」の取りまとめを行い、関係機関への提言を行うとともに、その内容を深化、ブラッシュアップさせることにより、夢物語から実現への架け橋となる一年を目指します。

また、地域の気運を盛り上げるために、他の経済団体等との連携により、やつしろ物流拠点構想、インバウン

ド対策等、地域活性化のためのキーワードについてのセミナーを開催します。

委員会メンバーの皆さんはもちろんのこと、会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

情報発信委員会

委員長 上 田 定 宗

本年度は情報発信の役割として、例会・行事へ積極的に参加し、各課題の流れをみてどの様な情報発信が今一番効果的なのか、何が必要とされている情報なのかを委員会で協議し、この1年間でおかれてる各課題が1歩でも前に進んだ事を積極的に内外へ情報発信する為に、八代経済開発同友会の縦のつながり、各委員会との横のつながりを大切にしながらいちいち情報収集を図り、共有したいと考えます。

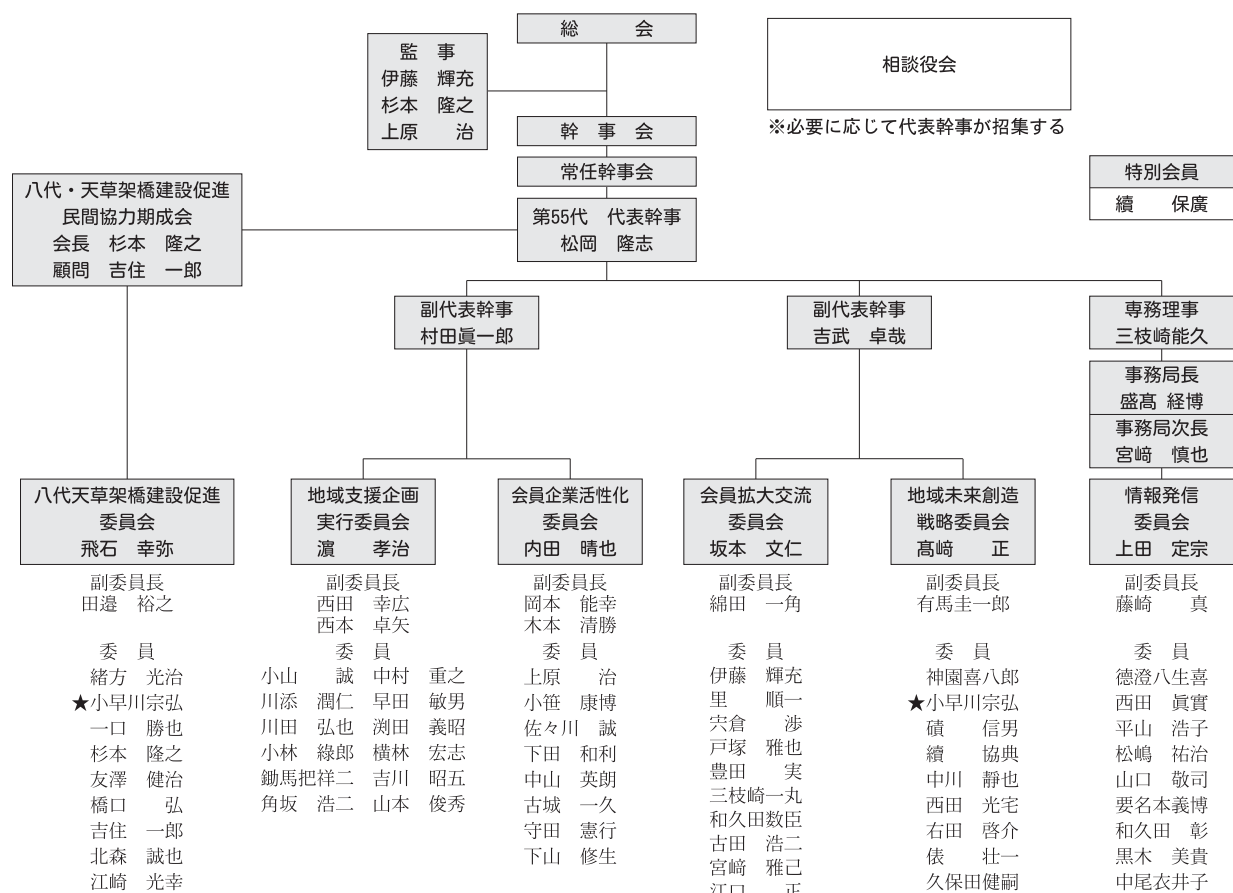
まず、この委員会1人1人が情報発信をするという強い気持ちを持ち、それが同友会全体に広がれば1番良い事であると思います。それには先ず、委員会の会員同士で「LINE」のグループ化や「Facebook」のやりとりを楽しく実践することが先決と考えます。

また、同友会広報誌「鵬鷹」（4月末・10月末・3月末の年3回発行予定）やHP（毎月）・例会（毎月）をSNS（随時）を通して、私たちが意図する会員全員の情報共有・発信を様々な方法で模索しながらタイムリーな情報発信を目指して行きます。

そしてこの1年間、問題意識を持ち、委員活動をしていきたいと思っています。

本年度1年間どうぞ宜しくお願い致します。

2018年度 八代経済開発同友会組織図



新入会員の紹介



久保田健嗣 会員 48歳

平成30年 4 月入会
(有)久保田板金 代表取締役
企業理念
皆様に喜んでもらえる仕事をする事。



江崎 光幸 会員 40歳

平成30年 4 月入会
江崎建設 代表
企業理念
皆様に喜んでもらえる建物を建てる事を第一とする。



中尾衣井子 会員 45歳

平成30年 4 月入会
有限会社めがねの開眼堂 取締役
企業理念
徹底



黒木 美貴 会員 45歳

平成30年 4 月入会
スナック プラムダ 代表



俵 壮一 会員 44歳

平成30年 4 月入会
(株)氷川総合設備 代表取締役
企業理念
よりよい未来を創造し実践できる企業づくり



古田 浩二 会員 45歳

平成30年 4 月入会
オーシャン 管理者
企業理念
ギャップがなくなる その日まで



宮崎 雅己 会員 45歳

平成30年 4 月入会
(有)宮崎電設 代表取締役
企業理念
感謝、誠心誠意、整理整頓



山本 俊秀 会員 41歳

平成30年 4 月入会
株式会社 漱石 専務取締役
企業理念
食で心を豊かに



江口 正 会員 46歳

平成30年 4 月入会
(有)江口設備 代表取締役
企業理念
義理人情



北森 誠也 会員 47歳

平成30年 4 月入会
島田工業株式会社 代表取締役
企業理念
社員全員で力を合わせ、より高度な技術力を求め、常に改善・向上しながら、お客様に信頼される付加価値のある商品で社会に貢献し、堅実な経営を進める。



下山 修生 会員 44歳

平成30年 4 月入会
下山社会保健労務士事務所 代表
企業理念
労務管理体制を整備することにより、経営に安心を与え事業の健全な発達と労働者等の福祉の向上に資する。



実現させよう! 八代-天草架橋

私たちは、八代-天草を結ぶ橋(八代天草架橋)の早期建設を求めます!

昭和60年(1985年)、細川知事が熊本都市圏を結ぶ90分構想を発表。八代・松島間間の自動車専用道路建設構想も発表され早32年。現在でも宇土半島から天草2市1町へ至る陸路は、天草五橋を通る国道一本に依存しており、災害時対応の観点から緊急輸送路の確保が必要不可欠な状況であります。また、県南地域には素晴らしい観光資源や農林水産物、産業の潜在能力があり、九州新幹線・高速道路などの高速交通網の結節点としての機能やアジアに向けた物流拠点としての八代港を擁する八代と天草を短時間で結ぶ道路の建設は県南地域の発展のみならず南九州の発展へも貢献できるものと信じます。今こそ、八代天草架橋の早期実現を!!

ご意見・ご感想は下記まで

八代・天草架橋建設促進民間協力期成会(事務局):〒866-0883 八代市松江町290-1-3F
Fax:0965-346113 E-mail:jimukyoku@goroyoka-yatsushiro.com